

# 5 連携の進め方

近年、授業研究会においても「連携」がより重視されるようになってきました。このような背景に加えて、各市町教育委員会が幼稚園・保育所と小学校の連携の重要性を示したり、小中一貫教育を推進したり、幼保小中高のスクラム事業や教育資源の活用等、それぞれの地域や学校の実態に合わせたいろいろな連携が生まれています。

## 縦の連携：幼保小中高連携

- ・ 接続期の引き継ぎや情報共有を図ることで、双方の学校教育活動により効果が現れます。
- ・ 日常的、定期的な交流により、共通の課題について解決の方向が定まってきます。

## 横の連携：家庭地域、小小連携

- ・ 家庭にどのように連絡を取り、学校の現状を理解してもらうか、発信の工夫で信頼度が上がり、学校運営が良好になります。
- ・ 小学校同士の連携を工夫することで小中連携がより効果を上げます。

## つながって未来を拓く



校区で合同の課題を把握し、その改善に向けて取り組む研修会をはじめとし、授業研究会や子どもの情報交換等が積極的に行われるようになってきました。しかし、連携は行うことが目的ではありません。家庭や地域の願いを基盤とした各園・学校のめざす子どもの姿を共有し、その実現に向けて、連携の在り方を工夫し、具体的につながることが求められています。

子どもたちの未来を拓くための「つなぐ、つながる」教育の実現をめざして

# スクラム教育

子どもたちの学力向上を推進するため、幼稚園・保育園、小・中学校、高校などの学校種の枠を超えた一貫性のある取組（スクラム教育）が進められています。

東部地区では、「八頭タワー」と「岩美タワー」の2地域で、地域の実態を生かしながら学校相互の連携をより一層進め、スクラム教育を推進しています。



## 校種間連携による一貫性のある教育の実現



【テーマ】

「いきいきやっつこを育む 中高を中心とした連携の在り方」  
～学力向上と授業力の向上をめざして～

- 【組織】 八頭高校  
中央中・八東中・船岡中の各中学校区  
毎月1回 **スクラムリーダー会**の開催
- 【出席者】 スクラム担当教諭  
3中学校教務主任、八頭町教委、県教委

【取組の重点】

- ◆生徒の学力向上
- ◆教師同士の共通理解と共同体制づくり
- ◆中学生の高校生活体験、生徒同士の交流

## 八頭タワーの具体的な取組

### 小・高連携事業

八頭高体育コースの生徒が郡家東小と郡家西小に出かけ、体力測定（スポーツテスト）の計測協力や模範演技をし、給食交流をした。

「高校生の手本を見て、小学生の意欲が増した」など、事後のアンケートでは、小学生・高校生・教員とも満足度は高かった。



小・高交流

### 中・高連携交流

八頭高の理科教員と生徒が中央中に行き、物理・化学生物の3グループに分かれて中学生の実験指導を行った。生徒同士のコミュニケーション能力が高まり、互いの教員にとっては指導力の向上につながった。



数学科特別勉強会

### 八頭スクラム勉強会

3中学校の卒業生（八頭高生）が中学校3年生対象の夏休み勉強会に参加した。3日間実施し、多数の高校生が参加し、中学生に学習指導したり、受験の体験や高校生活を語ったりした。

中学生は目標を新たにし、高校生は有用感のある時間となった。

### 八頭高ライフ体験

八頭郡内の3つの中学校の2年生が集まり、4教科のグループに分かれ授業を受けたり、実際の授業風景を観たりした。また、生活全般や行事の話聞き近い未来を感じる機会となり、高校生活にあこがれをもった。

### 小・中・高連携授業研究会

これまでも開催されてきた小中合同授業研究会に、八頭高の教員にも参加を呼びかけた。授業参観だけでなく、教科別部会に参加した高校の教員から「小学校の授業を久々に見て、授業の流れなどとても刺激を受け、事後研も参考になった」といった感想があり、多くの参加者が異校種を知る大切さを感じた。

### 八頭町中・高連絡会

八頭町内3中学校と八頭高校の教員で組織される教科別連絡会を英数理3教科で開催し、高校1年生の実力テストをもとに教材や指導について研究協議を行った。これを受けて八頭町中高交流授業（出前講座）も実施した。



中・高連絡会  
(指導案づくり)



# 岩美タワー

岩美タワーでは、めざす子ども像に向けて幼児期から小・中・高等学校までを見通した教育のあり方を検討し、幼児・児童・生徒の交流や教職員の相互研修を行うなど具体的な取組を推進しています。

## 《岩美タワーを構成する学校》



町内でめざす子どもの姿を共有した具体的な取組を行っています。

### ★岩美町スクラム教育のねらい

- 子どもの「育ちや学び」をとぎれさせない。
- 縦（校種間）や横（学校・家庭・地域）の連携を大切にする。

### ★めざす子ども像とそれに向けた取組

- 自立する子 ..... ○基本的な生活習慣アンケート（学び続ける子・生活習慣の確立） 親子読書カード、いわみ検定 スキルタイムの内容改善
- 人とつながりを大切にする子... ○異年齢交流 接続期のカリキュラムづくり 保育参観・学習参観、交流学习
- 岩美町が好きになる子..... ○地域教材を使った教育活動 地域貢献活動

## 小学校6年生アプローチカリキュラム 年間計画

	1学期 学校のリーダーとしての自覚と行動ができる。				2学期 小学生として生活、学習を充実させる。					3学期 中学校生活への希望をもつ。			卒業時に 目指す姿
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
生活	[区休みの生活指導] 地域での望ましい生活指導				[区休みの生活指導] 地域での望ましい生活指導					[体験入学] [卒業後の生活指導] 中学校生活の説明 中学への心構えと執行部による説明 生活指導 学校の雰囲気を知る			生活リズムや基本的な生活習慣を定着している。自ら考え、より良い方向へと行動できる。
学習など	[家庭学習の進め方] 自学ノートの指導 [区休みの学習指導] 計画を立てて学習を進める				[陸上練習開始] 自分の力を伸ばす。 [区休みの学習指導] 苦手克服に向けた学習 [数学 出前授業] 中学での苦手分野より設定してもよい。 [自主学習指示交換]					[交流して教科学習] [がんばろうプリント] 学習のまとめ、苦手の克服への指導			相手を大切にしたい聞き方ができる。自分の考えをはっきりと伝えることができる。
特活など	[外国語活動] 担任教師と中学校ALTIによる指導 [校合同学習1] 岩美中で出会う仲間としてよりよい仲間作り [部水泳大会] 学校代表としての自覚 応援、交流				[陸上練習開始] 自分の力を伸ばす。 [校合同学習2] 岩美中で出会う仲間としてよりよい仲間づくり [自主学習指示交換]					[中・6年交流] 縦割り班での仲間づくり交流 [人権アンケート] 子ども思い願いを中学校へ伝える			

子どもたちにとっての違いを理解し、段差が乗り越えられるような取組を考えています。



## 児童生徒に身に付けたい学習ルール(H24 4月作成) 岩美町スクラム教育推進委員会

岩美町 児童・生徒に身に付けたい学習ルールの基礎・基本例 (H24. 4月作成) 岩美町スクラム教育推進委員会												
		脳がゆるやかに発達する時期(5歳～10歳)				10歳の壁		脳が再び急激に発達する時期(前期:後期) 10歳～18歳				
学びの姿勢	家庭	保育所	小学校 1年	2年	3年	4年	5年	6年	中学校 1年	2年	3年	高等学校1年 2年 3年
活動・学習準備	登所後、持ち物の片付けをし連絡ノートを出す。	毎日、準備の準備ができる。(とがった鉛筆、赤ペン、消しゴム、定規、名前ペンなど)										
活動・授業前	席について 待つ。	授業開始時間と同時に授業を始め始める。		学習の準備を事前にし、座って静かに待つ。		学習の準備を事前にし、座って学習の内容をじっくりと待つ。		学習準備をして2分前着席。黙想して、本時の学習への心構えを持つ。		授業の準備をし、服装を整え、着席して待つ。		
活動・授業中	聞く	話し手の顔を見て静かに聞く。	話し手の顔を見て、最後まで静かに聞く。正しく聞き取る。	話し手の顔を見て、つまずきながら聞く。大切なことを聞き取る。自分の意見と比較して聞く。	話し手の顔を見て、自分の考えを比較し、よりよい考え方や方法を見つけようとして聞く。概要をつかみ、要点をまとめる。	自分の意見との違いに注意しながら聞いている。						
	話す	文末まで「～です。」を付けて話す。	文末まで「～です。」「～と思います。」などつけて話す。	文末まで、理由を付けてはっきりと話す。	友達の意見をつながりながら、ふさわしい言葉を選んで話す。	相手の話を聞いてそれに対する意見や質問を発表する。						
活動・授業中	書く・描く	クレパス、サインペンなどを正しく持ち自分のイメージしたことを書く。	鉛筆を正しく握って、丁寧に字で正しく書く。	板書を時間を決めて写す。	大切なところを分かるように図や表などを活用しながら工夫して書く。	授業の流れに応じて、自分で工夫してノートにまとめる。書いた文章を必ず推敲する。						
	姿勢	正しい姿勢で座る。	正しい姿勢で学習する。書く姿勢が崩れないように、教科書やノートなどの配置を考えて書く。									
あいさつ	朝、帰りの会などで当番が中心となりみんなであいさつをする。	当番が号令をかけ、始めと終わりの挨拶をきちんとする。										
家庭学習	お家の方と一緒に絵本を楽しむ時間を持つ。	30分以上、家庭学習を行う。決められたことをきちんとやりきる。	10分×学年以上、集中して家庭学習を行う。自主学習に進んで取り組む。				平日 1時間(学年)×40分 休日 2時間(学年)×40分 必要科目、進めたい学習や興味のある分野を選んで取り組む。 [ノート]に取組 [学習中心の自主学習]に取組む。					

\* 以上を例として、各学校の実態に合わせて 粘り強い指導を心がける。

新しい学校生活をスタートする際、小1プロブレムや中1ギャップなど、学校生活への適応を図ることが難しい場合があります。異校種間で子どもの学びや育ちが繋がっていくよう、縦（校種間）や横（校種の幼保小中学校、家庭・地域）の連携を大切にし、めざす子どもの姿を共有し、それに向けてスクラムを組んで具体的な取組を進めてほしいものです。